

パワーステアリング ポンプ交換時の取扱注意事項

パワーステアリング ポンプは機能部品です。取り付けは認証された整備工場で行ってください。また取り扱い説明書をよく読み、確実に取り付けて下さい。

1. 商品が届いたら

- ◇ 輸送中の破損の有無を確認して下さい。
ボルトの取り付け部や付属品の破損チェックを取り付け前に必ず行ってください。
- ◇ 商品の確認を行ってください。
プーリーの取り付け方法、ブラケットの取り付け位置等、同一車種や搭載エンジンによって形状の良く似ている商品があります。
必ず取り外した商品と比較を行ってください。

一部商品を除き、プーリー・エアークントロールバルブセンサー等は基本的に付属いたしません。

2. 交換前に

- ◇ パワステフルードを完全に全量抜き替え、オイルラインのスラッジを除去してください。
スラッジが新しいポンプに入り込むと、油圧の低下や異音発生を起こす原因となります。
- ◇ 高/低圧ホースの亀裂、劣化、ラック&ピニオンのブーツ内のオイル漏れを確認してください。
特に低圧側は、亀裂や劣化が発生していてもオイル漏れが発生しない場合がありますが、亀裂よりエアを吸い込み、異音が発生する場合があります。
- ◇ エアークントロールバルブの確認を行ってください。
エアークントロールバルブ(写真1)の底部よりバルブの芯が飛び出している場合や、触ると動く場合は新品に交換してください。
エアを吸い込み、異音が発生する場合があります。
また、パワステフルードがエンジンに流れ込み、車両火災の原因となる場合があります。

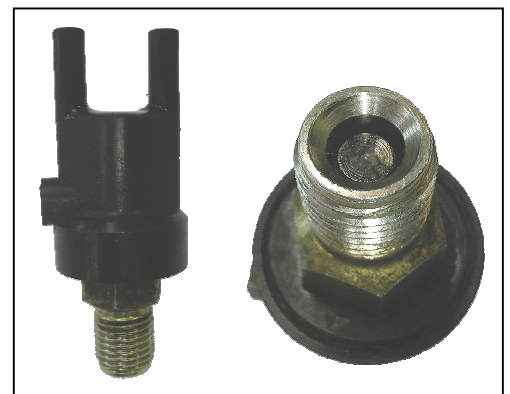


写真1

◇ パワステポンプのプーリーを確認してください。

プーリーの取り付け穴のキー溝が磨耗を起こしていた場合、異音発生の原因となる場合や、走行中にシャフト抜けを起こす場合があります。(図1)

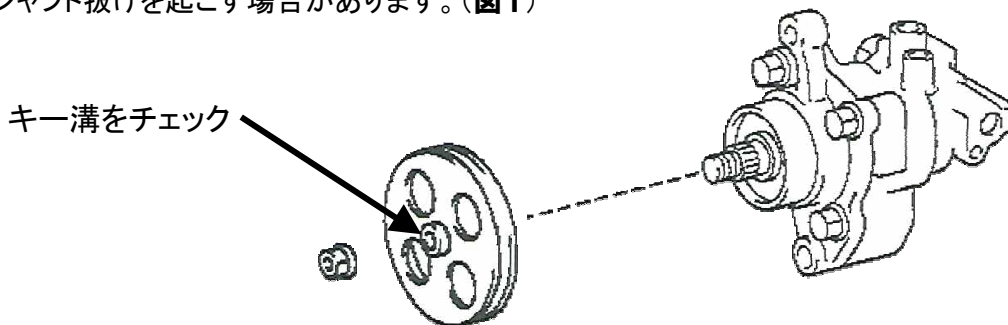


図1

◇ パワステのオイルタンクを必ず洗浄してください。

オイルタンクを洗浄せずにポンプを取り付けてしまうと、オイルタンク内のストレーナーが目詰まりを起こし、オイル流量不足となります。油圧不足や異音発生の原因となります。

オイルタンク内のストレーナーは細かい網目状となっており、(写真2)スラッジが溜まり易い構造となっています。(写真3)

構造上、目視による目詰まりの判断は非常に困難ですので、オイルタンクが汚れていないと判断されても、下記の手順にて必ず洗浄を行って下さい。

ストレーナーが破れていたり、汚れのひどい場合やスラッジが固着している場合は、新品のオイルタンクに交換してください。



写真2



写真3

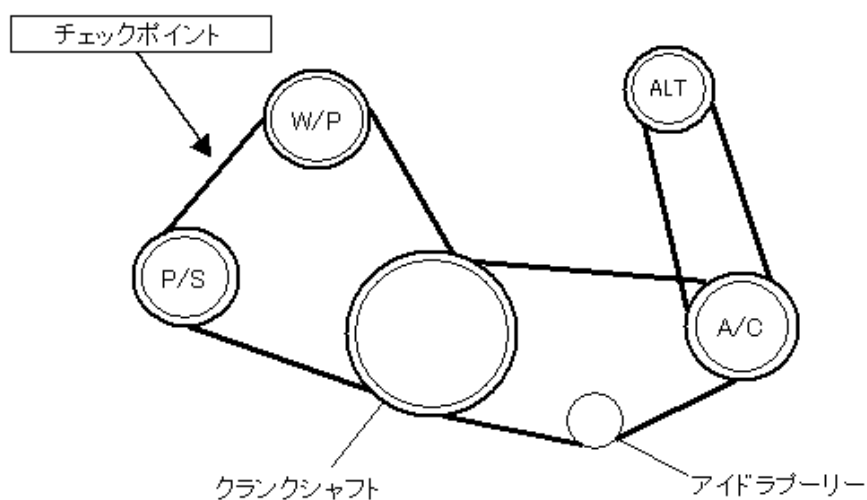


確認

オイルタンク洗浄方法

1. タンクを車体より取り外して下さい。
2. 洗浄液を容器に入れ容器の中にタンクを入れ20~30分程度漬け置きして下さい。
3. タンクを洗浄液の中で良く振ってから取り出して下さい。
4. タンクの出口よりパーツクリーナーのノズルを入れ、タンク内のストレーナーをよく洗浄して下さい。
5. 洗浄後、ストレーナーの状態を確認し車体に取り付けて下さい。

- ◇ 高圧側のワッシャー・Oリングは必ず新品に交換してください。
古いワッシャー・Oリングを再使用すると、オイル漏れを起こしたり、エアーを吸い込み異音の原因となる場合があります。
- ◇ パワステベルトの点検、テンショナーベアリングの点検を行ってください。
劣化したベルトを使用すると、ベルトの滑りによる異音・操舵不良の原因となります。
また、テンショナーベアリングからの異音は、ポンプからの異音と間違え易いのでご注意ください。
- ◇ パワステポンプのベルトの張り過ぎに注意して下さい。
パワステベルトはカーメーカーの整備基準に従って適正な張力が必要です。
張力が基準値よりも強すぎると、ポンプ本体とシャフトの間に圧入してあるブッシュやベアリングが焼き付きを起こし、シャフトよりオイル漏れを起こします。
各車両ごとの基準値に従い調整を行ってください。(図2)



- ◇ 各部取り付けボルトの締め付けは、カーメーカーの指定トルクで行ってください。
インパクトレンチ等を使用し強いトルクで締め付けますと、ポンプやブラケットを破損する場合があります。

3. 交換が終わったら

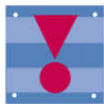
◇ エアー抜き時の注意

パワステフルードは必ずカーメーカー指定の専用フルードを使用して下さい。
エアー抜きは必ず下記の手順にて行って下さい。

- (1) パワステポンプ取り付け後、車両をリフトアップします。
- (2) オイルタンク内に十分な量のオイルを注入し、エンジンを始動させずに左右にハンドルをいっぱいまで切り返し、タンク内の気泡が無くなるまで繰り返します。
(目安15～20回)
- (3) オイルタンク内の油量を確認し、エンジンを始動してください。
- (4) エンジン回転数が低下したのを確認の後、通常のエアー抜き作業を行って下さい。

通常のエアー抜きはエンジンの暖気を十分に行ってから実施して下さい。

高回転時にハンドルを操舵しエアー抜きした場合、異常圧力を発生しポンプ内にあるサイドローターのOリングが破損し圧力が出なくなる場合があります。



エアー抜き作業でポンプを破損するケースがよくありますので、十分に注意して作業を行ってください。

お問い合わせ・コア返却先は

〒342-0016

埼玉県吉川市会野谷1-173-1

RAP 宛

TEL : 048 (981) 6381

FAX : 048 (981) 6385